

LSHTM TB centre retreat に参加して

安田 一行

この度、有吉紅也教授に同行して 2018 年 12 月 6 日にロンドンで開催された LSHTM TB centre retreat に参加させて頂きましたのでご報告いたします。

LSHTM TB Centre は 2012 年に設立され 120 名以上の結核専門家が登録されているロンドン大学衛生・熱帯医学大学院 (LSHTM)内組織です。LSHTM は現在長崎大学 TMGH 校と活発な交流がありまた有吉教授をはじめこれまでに当教室の多くの先生が学ばれた大学院と認識していましたが、TB Centre については今回有吉教授及び現在フィリピンで結核の疫学研究を中心に活動されている Sharon Cox 教授からのご紹介を頂きその存在を初めて知りました。

LSHTM TB Centre という組織の概要や特に結核研究をされている方に有用な情報を今回得ましたので、ここに情報を共有させていただきたいと思えます。

LSHTM TB Centre の特徴としてはそれぞれのメンバーの専門分野が非常に多岐に渡っていることが挙げられ、例えばクリニカルトリアル、ワクチン開発、疫学、基礎科学、免疫学、診断学、モデリング、医療経済学などといった具合です。またアジア、アフリカ、ラテンアメリカとのコラボレーションを行っており世界中の研究サイトに携わっています。このように多種多様の専門分野を持つ専門家の横のつながりを作ることで、また世界中の研究サイトへのアクセスを有効活用することで、結核に対する多角的な取り組みを可能にすることを目的としています。そして参加させて頂いた LSHTM TB centre retreat は、そのメンバーが一堂に会し、それぞれの研究の進捗状況を互いに検討・意見交換し、また LSHTM TB centre の活動をより良くするための方法について話し合う定期集会とのことでした。

まず、今回の集会の前半で報告された研究テーマの概要は以下ですが、非常にバラエティに富んだテーマについて異なる専門分野の研究者が議論していることがお分かりになると思います。テーマ: 結核治療の cost benefit の検討、潜伏期感染に注目した感染モデル、MRC ガンビアにおける LTBI と active TB の区別または治療法選択のためのバイオマーカー検索研究、ガンビアでの結核治療の質調査、digital X/computer-assisted diagnosis(CAD)を利用した途上国での TB 及び HIV スクリーニングへの効果、症状とスミア検査を用いた地域での outreach screening、南アフリカの結核治療における糖尿病重点治療の評価、フィリピンでの結核患者における糖尿病評価、結核における Protein synthesis translational regulator、Therapeutic TB vaccine、結核と invariant Natural killer T (iNKT)など。

そして会の後半は LSHTM TB centre の活動をより良くするための方法についての意見交換が行われました。議論の中心はいかに TB centre の存在を外部の研究者や市民に周知してもらうかという点であり、具体的にはすでに存在する広告紙やホームページ、SNS をどう有効活用していくかという内容でした。小グループに分かれての議論でしたが若い研究者からベテランの先生まで真剣にそして平等に議論する姿が印象的でした。TB centre の日本での認知度向上のために日本の大

学や研究所とのコラボレーションや TB centre メンバーの来日案が有吉教授より提示され、非常に興味を持って頂いた印象でした。

LSHTM TB centre は活動の外部発信に熱心に取り組んでおり、ご興味のある方にはぜひホームページをご覧くださいと思います。ホームページでは無料配信レクチャーや輪読会の記録があり結核のトピックがまとめられています。

<https://tb.lshtm.ac.uk> さらに twitter でも情報配信されております。

半日間の催しでしたが密度は濃く、ロンドンでは結核について活発な活動がなされていることを知り、また普段なかなか接点のない専門家とお会いする機会を得ました。ベテランも大学院学生も混じり合い本気で世界の結核を改善しようという熱気に触れることもできました。このような草の根的活動もその活動の存在さえ知っていれば SNS 等での情報收拾により日本のような遠方からもフォローが可能な時代ですので、日本のご興味ある方々にも情報共有できたら幸いです。

